

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401012		
法人名	社会福祉法人 幸和会		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	雲仙市吾妻町牛口名373番地2		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・病院内の敷地に隣接しているため、急変時や事故発生時に早急な対応ができ、御家族様にも安心してもらえる。毎日、利用者様が退屈しないように、ゲーム・レクリエーション・散歩など、その日の利用者様の状態に合わせて行っています。食事の面では、一人ひとりにあわせた、食事形態(おかゆ・刻み食・ミキサー食)の提供。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の病院として親しまれている医療法人の敷地内に位置する当該事業所は、家庭的な愛情と優しさを大事にしながら入居者ひとり一人がいつまでも自分らしい生活を送って頂けるよう、職員の意識を高めながら支援に努めています。病院敷地内にあることから、入居者の小さな体調変化を直接医師に相談でき、入居者や家族からも安心感を得られています。法人内では医療や介護実践に繋がる研修やその時期に応じた学びの機会も多く、専門性を持ちながら入居者に支援できるよう努めています。ホームだけでは解決できない事は法人の会議でも検討され、また、避難訓練は法人全体で実施されるなど、組織的に安心や安全に向けた取り組みがある様子も確認できました。現在介護職員不足で、人力的な余裕がない課題も生じていますが、家族の言葉や調査結果を前向きに受け止め、職員は入居者や家族に寄り添い、家庭的な雰囲気や大事にしながら日々支援に努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作り、事業所内に掲示している。職員全員が認識し、実践しています。	開設当初に作成された理念は、玄関入口に掲示され毎日の生活の中で入居者への関わり方を職員間で話し合いながら理念に実践に繋がっています。現在職員が不足し、業務に余裕がないとの反省点もありましたが、月1回の会議で職員の接遇姿勢の振り返りやその人らしい生活の実現に向け話し合いが持たれています。	入居者の高齢化に伴い介護量も増えていることから、職員の勤務体制に余裕がない悩みも窺われますが、再度理念の意識付けを行い、理念に添った支援の継続に努めるよう今後の取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祐和会・幸和会で、夏祭り・クリスマス会を開催したり、保育園訪問をして交流しています。	医療法人敷地内にあるホームであることから、なかなか近所付き合いができない悩みはありますが、職員は散歩に出かけた際に地域の方への声かけを行い、顔が見える関係作りに努めています。ホームとしても地域の方が気軽に立ち寄れる環境作りを課題に感じており、今回「吾妻踊りを引き継ぐ会」に慰問を依頼するなど交流の広がりを検討されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験学習を通して、その人に合わせた援助をすれば、認知症の方も普通に生活できるということを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回行い、毎回活動報告などすると共に、様々な取り組みについても意見を貰い、サービスの向上に努めています。	定期的な推進会議では、入居者の状況や暮らしぶりを報告し、運営の透明性が図られています。今回は褥瘡についての資料を示しながらホームの取り組みを周知理解に繋がりました。家族の状況により参加できる家族が固定化されている現状にありますが、参加者の増員や交代など対応方法を現在検討中にあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっています。	推進会議に包括職員の参加があり、ホームの現状や取り組みを伝える機会となっています。制度上の留意点や事例について助言をもらい、また、地域からの入居相談をホームに繋いでもらうなど連携がなされています。推進会議に民生委員や警察署員の参加があることもあり、地域の情報を得ながら連携も図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接の病院内に委員会を設置し、研修を行っています。	定期的な研修の機会を設け、身体拘束をしないケアの実践に努めています。重度化に伴い、入居者の心身の介護量も増えている現状にありますが、入居者の行動について職員間で話し合いをしながら見守りを強化し、入居者の状態に応じた対応がなされています。ヒヤリハットを活用しながら互いに注意しながら拘束にならないよう心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、院内勉強会に参加したり言葉使いなど気をつけながら防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もおり、理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書・契約書を読み説明を行っている。疑問点があれば、質問を受け理解して頂けるよう説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や運営推進会議等で、意見を頂き反映させています。	入居者と日頃の関わりの中からホームへの要望を収集し、また家族とは面会ごとに入居者の状況を細かく報告することで信頼関係を築くよう努めています。年2回の家族会では一緒に食事を楽しみ、ホーム便りと共に入居者個人宛の便りを添え、遠方の家族へ暮らしぶりを報告する事は、家族からも大変喜ばれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループワーク時に、意見や要望を聞く機会を設けています。	職員間のチームワークもよく、その都度話し合いを行いながら職員全体で解決していく体制にあります。法人の研修に参加することで職員のスキルアップを図り、定期的なグループワークの機会に職員の提案や課題を話し合いながら改善に努めています。現場で解決できない事案は法人会議でも検討され、組織的な対応もなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各行事ごとに担当を決め、責任感ややりがいを持ってもらうよう工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交替で法人内外の研修会に参加する機会を設けているが、現在参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり、事例検討や意見交換を行い、交流を図るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族が安心して生活できるよう、雰囲気作りにも努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず話をして、要望など聞き、安心して頂けるよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して生活できるよう、家族様が必要としている支援を見極めながら援助しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場なので、共にという雰囲気があるように、全体のバランスが良くなるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回のお便りにて、近況報告をしている。また、状態が変化した時は、その都度報告するように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様もの希望に出来るように心がけています。	家族と過ごす時間を大事に捉え、面会時間を制約せずゆっくりと過ごせるよう環境を整え対応しています。入居者の重度化に伴い、積極的な外出も難しい現状がありますが、外出の際には家族の負担にならないよう車椅子の貸し出しを行いながら親類や友人が気軽に足を運んでもらえるよう訪問の際にも対応に配慮し、職員が仲介役を担いながら繋がりが途切れないよう配慮されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様もの中に入り、話しかけたり、ゲームやレクリエーションを楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により、退所というパターンが多い。退所後も病院より経過を伝えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状が重い方は、どのような意向を持っているのか、言葉や行動より理解しようと努めています。	日頃の関わりの中から言葉や仕草で思いや意向を収集し、その方の思いに添った支援に努めています。体調の変化や気持ちをなかなか伝達できない入居者も増えてきていますが、その方の行動を見て思いを汲み取り、選択肢を示しながら視覚的「選ぶ」事ができるよう環境を整えながら対応するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・御家族様より情報を収集し在宅での生活をなるべく継続できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で、情報交換しながら毎日の様子を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時には、御家族様へ施設での現状を伝え、同時に意見も聞く。スタッフ間で対応策を考え実行している。介護計画に入れている。	生活記録には、個々の生活状況と共に状況の変化が記録され、職員間で話し合いを持ちながら次回計画にも反映される仕組みとなっています。計画作成者により期間や援助内容の進捗状況の把握がなされ、心身の状況に応じて家族と共にカンファレンスを重ね、追加修正しながら入居者の状況に応じた計画書が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・看護日誌、支援経過に記録し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援し、不十分と考えれば、スタッフ間で話し合い、支援方法を随時変えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には、自治会の夜間パトロールや民生員の訪問、移動美容室などある。何かあれば、派出所に連絡するようになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に病院があり、定期受診や病状変化時の受診など行い、家族様にも随時伝えている。必要があれば、主治医と家族様との面談も設定しています。	ホームの母体が医療法人であることから、毎日の健康管理が主治医と共になされています。急変時や細かな状態変化にもすぐに相談、対応してもらえる環境にあり、入居者本人や家族からも安心感が得られています。専門医の受診は家族対応となりますが、日頃の状況を医療的な観点から申し送りもなされ、適切な対応に繋がるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常勤し、随時スタッフへのアドバイスを行っている。病院と連携し、病状にあわせ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携ができていますので、主治医の判断により速やかに入院できる。退院時も事前に情報交換を行っているのでスムーズである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や病状にあわせ、事前に御家族へ意向を聞いている。其の都度、病院に意見を伝えています。	現在、食事が摂れるぎりぎりのところまでをホームで対応し、外来や、医療連携看護師による点滴で対応し、継続的な医療が必要になるまでをホームで過ごせるよう支援されています。体調の変化がある毎に家族や医師と話し合いを重ねながら、その方と家族にとって最良の方法で支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院主催の研修会やグループワークの時に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に震災時の訓練を行っている。消防隊の方も来られアドバイスを貰い改善しています。	医療法人敷地内に位置するホームであることから、有事の際は法人より協力を受けることができる体制が整っています。定期的なホームの避難訓練に加え、法人の総合避難訓練に参加し、また今年度は地震を想定した訓練に取り組み火災のみならず、風水害にも意識を持って取り組みました。ホームでも簡易的な食材を準備するとともに法人内に備蓄品を整備し、有事の際の対応に備えています。	現在、ホームの備蓄食材も法人で一括管理がなされている状況にありますが、内容や数量の把握ができない状況が窺われました。ホームに残留した職員が食事の提供を行う事にもなるため、備蓄食の保管場所や入居者が口にできるものが整備され備蓄量が誰もが認識できるよう具体的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声かけを心がけています。	トイレや入浴をはじめ、入居者を次の行動に誘導する際は決して無理強いせず、その方の気持ちを考えながら対応するように努めています。入居者によっては方言を使用し、馴染みのある伝わりやすい言葉かけを行う事もありますが、慣れ合いになりすぎないよう職員間で注意しながら対応に努めています。	現在、介護職員不足の事情があり、共用空間と居室部分に入居者のベッドを設置する様子が窺われました。転倒を防ぐ半面、プライバシーの観点からも、状況と状態に応じた居室の準備など、早急な対応が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思いや希望を優先して、自己決定できるように声かけ、助言をし支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして、希望に合った過ごし方を提供し、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不潔にならないように、毎日の洗面・口腔ケア・整髪などの支援または、介助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせた食事作りを心がけ、食事を楽しんでもらえるよう支援しています。	ホームの台所では職員による手作りの献立が調理され、入居者は調理の音と香りで食事を楽しまれています。その方の嚥下や咀嚼の様子を見ながらそれぞれに応じた食事形態で調理され、誕生日にはその方が食べたいものをお祝い膳として準備されています。年末には食材の皮むき等おせち作りにも参加し、季節の移ろいが感じられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあった食事摂取または、水分摂取が出来るよう、支援または介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援または介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パンツに尿取りパット装着にて、おむつの使用を減らし、時間的または、本人様の意欲にあわせ、排泄介助を行っている。できる部分は見守っています。	入居者本人や家族の負担を考慮しながら、できるだけトイレ排泄できるよう時間を見て誘導し、失敗のないよう努めています。できることはできるだけ自分で行えるようパットを手の届く位置に準備し、また、身体状況に応じて座位が安定した入居者にはドアの外から見守りを行うなど、羞恥心に配慮するよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・食物繊維の多い食材を食事に取り入れたり、水分補給を行ったりして工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴されるか尋ねて誘導している。高齢の方は疲れやすいので、無理には勧めません。	入浴の場面は職員と入居者のコミュニケーションの場と捉え、1対1で寛ぎながら入浴できるよう努めています。体力的な負担を考慮し現在は1日おきに入浴を実施する入居者も多い現状にありますが、毎日お湯張りしていることから皮膚トラブル等、乾燥によるストレスに早期対応も可能等、入居者状態に応じて臨機応変に対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、レクリエーションなどで、覚醒できるようにしている。常に起きていると疲れるので、昼食後に午睡時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より説明を頂き、確認している服用時は、1回分の薬の手渡しをしたり、内服してもらい嚙下まで確認している。また、名前・日付け・朝・昼・夕を必ず確認し服用させています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫が得意な人は、洋服のほつれやボタンつけなど依頼している。バレーボールをしていた方には、ボール投げやボーリングなどレクリエーションに加えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外での催し物への参加、施設周辺の散歩などしている。本人様が希望されれば、御家族様へ連絡し、外出を可能にしています。	入居者の重度化に伴い、積極的な外出も困難な現状にありますが、天候を見ながら地域へ散歩に出かけたり、ホームのテラスで外気浴を楽しむなど身体に負担を少なくしながら気分転換が図られています。ホームとしても外出を勧めたいと考えており、天候を見ながら家族と協力し実施していく意向にあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様持ちや支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、御家族様に電話をして内容を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、季節や行事にあった飾り物や花・観葉植物などを置き、家庭的な雰囲気を出すよう心がけています。	地域の公道に面した場所に食堂が位置しており、大きな窓から地域の人が行来する様子を眺めながら日向ぼっこを楽しめる入居者もいらっしゃいました。庭先には季節の花が植えられ、また掃きだしを開けるとベンチの設置があり入居者が自由に外気浴を楽しめるよう環境が準備されています。円卓で食事を囲みながら会話を楽しみ温かな雰囲気作りがなされています。	今回の調査時において、投与前の内服薬管理場所について、リスク管理の観点から誤薬の心配が窺われました。ホームの特性から入居者が誤って他人の内服薬を口にすることも考えられるため、事故を防ぐためにも再度保管場所を検討することが望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大窓にソファを置き、気のあった利用者様同志で座れる場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋服など使いたなくなったものを使って頂き、面会時には、居室で一緒にお茶を飲みながら過ごしてもらっています。	入居者が自宅で使われていた手まわり品や家具の持ち込みがあり、できるだけ自宅で過ごしていた環境に近づけるよう家族と話し合いをしながらその人に応じた居室づくりがなされています。家族や孫との写真や、入居者の作品が飾られ、その方が部屋で過ごす時間は思いおもいに心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・わかることの把握に努め、個々の状態にあわせ、家具やポータブルトイレの配置を変えたり、何か分かるように貼り紙をしたり環境整備に努めています。		